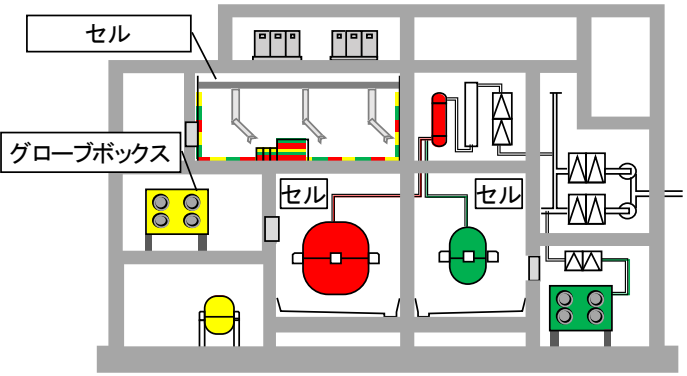
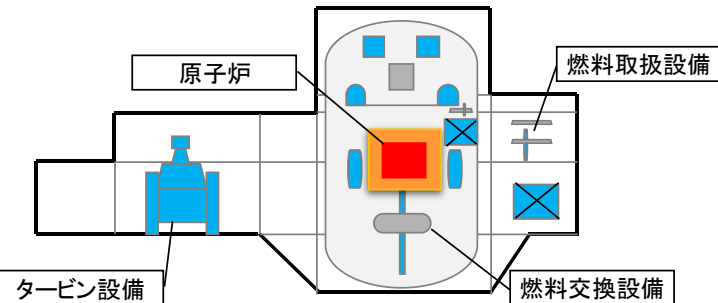


再処理施設の廃止措置の特徴

－原子力発電所との比較－

再処理施設	(参考)原子力発電所
<p> ■ : FP/TRU系 (放射線量が比較的高い) ■ : Pu系 (放射線量が比較的低い) ■ : U系 (放射線量が極めて低い) </p> 	<p> ■ :放射線量が比較的高い (主に放射化) ■ :放射線量が比較的低い (主に放射化) ■ :放射線量が極めて低い </p> 
<ul style="list-style-type: none"> 放射線物質を扱う機器、配管が広範囲に汚染(放射線物質が付着)。 セル内、グローブボックス内など広い面積が汚染。 場所により、核分裂生成物、長半減期のウラン・プルトニウム等、汚染の組成が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大部分の放射線物質は使用済燃料の中に密封(燃料を取り出せば大幅に減少)。 炉心に放射化物が集中。 大型の機器や配管が多い。 短半減期の放射線核種も存在(冷却期間を設ける)。

－東海再処理施設の特徴－

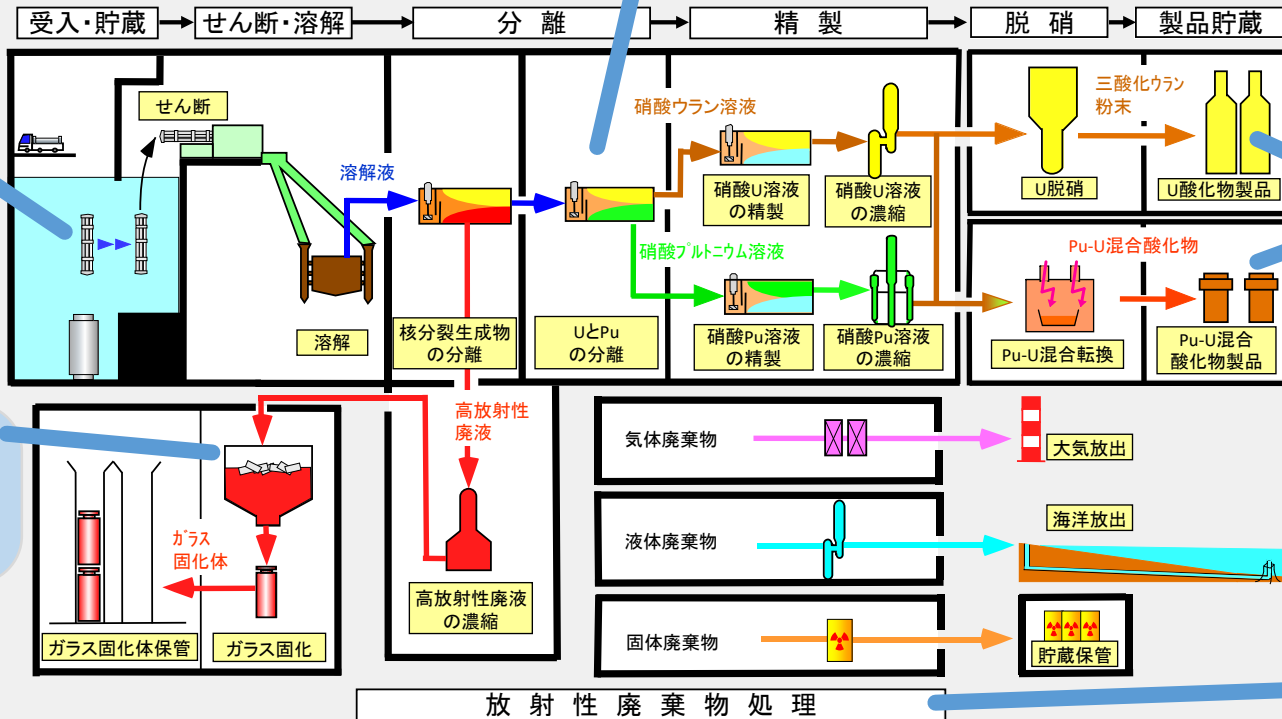
工程内に残留した核燃料物質等の回収、系統除染が必要

使用済燃料の搬出が必要

核燃料物質の譲渡が必要

特にリスクの高い高放射性廃液の処理が必要

廃止措置と並行し、再処理に伴い発生した放射性廃棄物の処理が必要



上記の他、

- ・ 約30の管理区域を有する施設に対して順次廃止措置を進めることが必要
- ・ 施設の高経年化対策が必要
- ・ 新規基準を踏まえた安全性向上対策が必要
- ・ 機器解体後のスペースを活用し、解体廃棄物の保管が必要